

集会宣言

1981年に上関原発建設計画が浮上して以降29年、建設予定地の目の前の対岸に位置する祝島を中心に、地元反対運動は、生活の糧としての海を守るため、そしてそれは「命」を守るため、一切の妥協なく体を張り続けている。

私たちは、昨年9月10日から、公有水面埋め立て工事に着手しようとする中国電力と真正面から対峙してきた。そして今なお、田ノ浦の現地において、本格的に埋め立て工事を再開しようとする中国電力と激しく対峙を続けている。

国や電力事業者が推進する原子力政策は、核のごみ処分を先送りし、二酸化炭素を出さないという一点でのみ、推し進めようとしている。

原発は、運転時にのみ二酸化炭素は出さないが、放射能を撒き散らす。放射能は目には見えず、上関町内だけで留まる物ではなく、広く拡散されていく。現在の原発技術力をもって、そのことは克服されていない。本来、原発建設問題は、その環境に与える影響を含め、広く是非を問う必要があるはずである。これまでの国や電力事業者の強引に原発建設を推し進める態度に、大きな憤りを覚える。

中国電力は、今年3月、島根原発における500箇所を超える点検漏れや機器の未交換を明らかにした。さらに点検実績と計画表が合致しないものが1000箇所以上見つかっているが、点検不備による原子炉停止は全国初のことである。この間、中国電力が度々唱えてきた「原発は安全」という言葉に信憑性はない。

私たちは、昨年10月と今年5月の2回にわたり、全国から85万筆を越える「上関原発建設の中止を求める」署名を国に提出してきた。国は、大量消費を前提とした環境負荷の高い原発は、もはや過去のものとなりつつあるということを実感し、全国の原発建設反対の声を真摯に受け止めるべきである。中国電力は、本当に一番利害関係が生ずる目の前の人の意見に、真剣に耳を傾けるべきである。そして、全国の電力事業者に先駆け、「原発から再生可能エネルギーへ方針転換」と英断を下すべきである。

本日ここ上関に、全国各地から、反原発・脱原発を切実に訴えている多くの仲間が結集した。私たちは、平和利用という仮面に覆われた原子力政策に断固反対を貫き、原発によって暮らし、命が脅かされることのない平和な社会を、そして、核も放射能もない未来を残していくため、最後までたたかい抜くことを全員で確認する。

以上宣言する。

2010年10月24日

10.24 原発いらん！in 上関集会